

## 目次

はじめに 愛知県被災者支援センター・センター長 栗田暢之  
東日本大震災から10年に当たって 愛知県知事 大村秀章

第1章 愛知県被災者支援センターの事業	9
第1節 発足までの経緯	9
第2節 愛知県における受入被災者登録制度	
1. 愛知県への広域避難者と避難理由	11
2. 住宅の確保・住宅入居登録と受入被災者の登録	13
3. 「全国避難者情報システム」と愛知県の「受入被災者登録制度」	16
第3節 愛知県被災者支援センターとその事業	
1. 愛知県による東日本大震災の受入被災者支援	19
2. 愛知県被災者支援センター（年次別の事業概要）	21
第2章 受入被災者支援の多機関連携	
第1節 愛知県と市町村における受入被災者支援の体制	32
第2節 市町村ヒアリングより明らかになった当事者参加型の広域避難者支援をめぐる多機関連携	
1. はじめに	35
2. 愛知県と市町村における上記の基本的状況（防災・福祉・保健センター）（県と政令市、市町村）	38
3. 多機関連携の多様性—市・社会福祉協議会等による実践	40
4. 事例の分析	47
第3章 パーソナルサポート支援チーム会議（PS会議）	
第1節 PS会議の構成と概要	
1. 発足にいたる経緯	54
2. PS会議の概要と参加団体・専門家	55
第2節 PS会議（及び参加団体・専門職）が関わった主な事業	59
第4章 個別支援の相談体制	
第1節 避難生活の推移と必要な支援	
1. 相談内容の特徴・推移	64
2. 避難の経験から「役に立ったこと」「不足していたこと」の振り返り	65
第2節 相談支援の全体像	
1. 相談内容と相談支援の方法の変化	69
2. 交流会を軸にした相談支援の経緯	77
第5章 各分野の相談・支援	
第1節 法的支援	
1. 愛知県弁護士会・福島原発事故愛知弁護士団	83
2. 司法書士の支援活動	85
第2節 心の支援（愛知県臨床心理士会）	
1. 愛知県被災者支援センターへの参加	87
2. 相談の諸相	88
3. この10年を今後に生かすために	88
第3節 家族の支援（在宅保健師会「あいち」）	
1. 在宅保健師会「あいち」	90
第4節 健康・医療的支援	
1. 避難者の健康相談に協力（愛知県保険医協会）	92

2. 甲状腺エコー検診（愛知民医連）	94
<b>第5節 日常生活支援</b>	
1. アウトリーチ支援の開始	97
2. 時の経過が分けた明暗	97
3. 日常を取り戻すためのアウトリーチ支援	97
4. 要支援者に対する個別支援	98
5. 地域力をつなぐ要	98
6. 10年を迎えるにあたって	99
<b>第6節 多文化支援</b>	
1. 海外出身者とその家族の避難の状況	101
2. 愛知県被災者支援センターにおける海外出身者とその家族への支援	101
3. 避難した海外出身者とその家族の支援に必要な知識と配慮	104
<b>第6章 当事者の参加と交流会</b> . . . . .	
<b>第1節 当事者を主体にした支援への試行錯誤</b>	
1. 出会った一人ひとりの話を聴き、できることを考える	107
2. 交流会と生活支援物資お届けによるつながり	109
3. 当事者を中心に、専門家や支援者が一緒に考える	110
<b>第2節 交流会をつくりあげた当事者の力</b>	
1. 母子父子元気回復事業	112
2. 大交流会とふるさとサポーター	115
3. 様々な交流会のかたち	118
<b>第3節 避難者の想いが詰まった交流会</b>	
1. ゆるりっと会	119
2. ふれあいひろば小牧	119
3. 岩手・宮城 気軽にお茶のみ交流会	119
4. ふくしま交流会	120
5. めぐりあいの会	121
<b>第7章 あおぞら・広報・定期便</b> . . . . .	
1. あおぞら	124
2. 広報	126
3. 定期便	127
<b>第8章 愛知県の取り組みの特徴と課題</b> . . . . .	
<b>第1節 愛知県と埼玉県における広域避難者支援の比較から</b>	129
<b>第2節 継続支援の先にみえる課題（災害看護）</b>	133
<b>第9章 到達点・成果と今後への課題</b> . . . . .	
1. 短期目標～10年以降も取り組むべきこと	140
2. 中長期目標～次に生きる支援ネットワークをめざして	141
<b>資料</b> . . . . .	
愛知県被災者支援センター 事業実績一覧	144
アンケート結果から	146
愛知県受入被災者支援要領	157
<b>事項索引</b>	162
<b>執筆者一覧（氏名・所属）</b>	166